

本性清淨説を取ると、それは彌勒説の眞髓になると思ふが、同時にそれは無着説の行くべき道ではないかと考へる。これは正しく中邊分別論第一相品の第二十一頌に現れて居る。

Yadi na syāt śaṅkṣāṇāṃ muktāḥ syāt śaṅkṣāṇāṃ I

Yadi na sū viṃśatīḥ syāt pratyakṣaṃ aṇuśīlī

dhavot II

若しその難染がないならば、一切有身は解脱するだらう。

若しその清淨がないならば、功用は無果であらう。

(完)

## 彙報

美學會例會

十二月九日(土) 午後六時半 於樂友會館

原始藝術の性格 金田民夫氏

## 寄贈雜誌

十一月號 一橋論叢(十・十一)

十二月號 丁酉倫理講演集、同教週報、文化

無着の唯識哲學における中心思想

## 前 目 次

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 東洋の繪畫に於ける「疎と密と二體」の解釋(承前) | 植田 壽藏 |
| 無着の唯識哲學における中心思想(承前)      | 鈴木 宗忠 |
| 時代區分の超歴史的根據              | 大島 康正 |